



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年8月4日

上場会社名 株式会社 ナック 上場取引所 東
コード番号 9788 URL <https://www.nacoo.com/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉村 寛
問合せ先責任者 (役職名) ビジネスサポート本部長 (氏名) 川上 裕也 TEL 03-3346-2111
四半期報告書提出予定日 2023年8月4日 配当支払開始予定日 -
四半期決算補足説明資料作成の有無：有
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	11,941	2.0	△162	-	△157	-	△244	-
2023年3月期第1四半期	11,702	△2.3	△243	-	△230	-	△260	-

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 △269百万円 (-%) 2023年3月期第1四半期 △363百万円 (-%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	△11.11	-
2023年3月期第1四半期	△11.60	-

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第1四半期	35,707	21,281	59.6	991.17
2023年3月期	38,735	23,204	59.9	1,032.62

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 21,281百万円 2023年3月期 23,204百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	-	10.00	-	30.00	40.00
2024年3月期	-	-	-	-	-
2024年3月期（予想）	-	10.00	-	32.00	42.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期（累計）	28,000	7.3	1,050	90.2	1,050	85.5	700	174.9	31.16
通期	60,000	5.1	3,500	8.3	3,500	7.9	2,200	9.9	97.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社 （社名）ー、除外 ー社 （社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期1Q	23,306,750株	2023年3月期	24,306,750株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	1,835,341株	2023年3月期	1,835,341株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期1Q	21,965,914株	2023年3月期1Q	22,440,654株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2023年4月1日～2023年6月30日)におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し経済活動の正常化が進む中で、景気は緩やかに持ち直しています。しかしながら、ウクライナ情勢の影響による原材料費・エネルギー価格の高騰や物価の上昇に加え、世界的な金融引き締め等が続く中、海外景気の下振れがわが国の景気に影響を及ぼすことが懸念され、依然として先行き不透明な状況が続いています。

当社グループの事業領域である小売・サービスにおいては、個人消費は回復基調にあります。雇用情勢は、定期給与等の増加により改善の動きがみられ、消費動向も外食、旅行等の対面型サービスを中心に回復の兆しがみられます。

このような中、当社グループでは各事業分野において、人生100年時代に向けた需要増加を見据え、顧客サービスの向上、販促活動や商圏の拡大及び事業再編に積極的に取り組んでまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高11,941百万円(前年同期比2.0%増)、営業損失162百万円(前年同期営業損失243百万円)、経常損失157百万円(同経常損失230百万円)、親会社株主に帰属する四半期純損失244百万円(同親会社株主に帰属する四半期純損失260百万円)となりました。

事業の種類別セグメント業績は次のとおりです。

各セグメントの営業損益のほかに、各セグメントに帰属しない全社費用等363百万円があります。

(クリクラ事業)

宅配水市場は、コロナ禍で新たな働き方として定着した在宅勤務や生活様式の変化により個人需要は引き続き増加しています。また、定額かつ安価で利用できる給水型の浄水サーバーが急速に需要拡大しており、異業種等の新規参入が活発化し顧客獲得競争は一層激しくなっております。

クリクラ事業では、新規顧客獲得のため前年度から新たに開始した「クリクラあんしん宣言」を軸に新TVCMを放映し、他社との差別化要素を明確に打ち出すとともに、ショッピングモールなどで行うイベント営業も強化し、販促活動強化に取り組みました。

直営部門は、宅配水「クリクラ」において、物価高による買い控えや大手企業の参入により前年同期と比較すると顧客件数が減少しているものの、新規獲得キャンペーンが計画通りに推移し、今年度の顧客件数は増加傾向にあります。また、前年度実施したクリクラボトルの値上げの影響により、売上高は前年同期比で増加しました。次亜塩素酸水溶液「ZiACO(ジアコ)」においては、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した影響でウイルス対策として利用していた顧客の解約率が増加し、売上高は前年同期比で減少しました。結果、ジアコの売上高減少をクリクラボトルの売上高増加が補い、直営部門全体の売上高は前年同期比で増加しました。

加盟店部門では、家庭での生活費見直しによる解約が増加傾向にあり顧客件数とクリクラボトルの販売本数が減少している一方、前年度に実施した値上げの影響で売上高は前年同期比で同水準(微増)となりました。

損益面では、クリクラボトルの値上げによる売上高増加により、営業利益は前年同期比で大幅に増加しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高3,600百万円(前年同期比4.1%増)、営業利益259百万円(同107.5%増)となりました。

なお、2023年3月に株式会社クリクラ長崎を新設し、当第1四半期連結会計期間より損益計上しております(影響は軽微)。

(レンタル事業)

レンタル事業では、感染症で変化したクリンネス市場の需要やライフスタイルに対応した商品・サービスの提供、及び人生100年時代に向けた販売網の拡大やサービス体制の強化に取り組みました。

主力のダスキン事業では、ダストコントロール部門において2022年7月に一部商品の値上げを実施したことで顧客単価が増加しました。また、家事代行や害虫駆除、花と庭木の管理といった包括的な役務サービスを提供するケアサービス部門、介護用品や福祉用具のレンタル・販売を行うヘルスレント部門において引き続き事業数を増やしたこと(2018年8月に締結した株式会社ダスキンの資本業務提携後から販促人員を増強して営業活動拡大中)により、売上高は前年同期比で増加しました。なお、当連結累計期間中に資本業務提携で予定していた120事業の追加を終える予定で、各事業の売上拡大とともに黒字化に向けて注力してまいります。

害虫駆除器「with」を主力とするウィズ事業では、主要顧客である飲食店への定期納品が回復し、前年度から納品率が改善したことで、売上高は前年同期比で同水準(微増)となりました。

法人向け定期清掃サービスを提供する株式会社アーネストでは、引き続き厚生労働省が実施する水際対策の支援事業の受注により、売上高は前年同期比で増加しました。

損益面では、株式会社アーネストの売上総利益率が低下した影響で営業利益は前年同期比で同水準(微減)となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高4,381百万円（前年同期比7.3%増）、営業利益408百万円（同1.4%減）となりました。

なお、事業領域の拡大や外注費抑制等を目的とし、2023年6月に賃貸物件等の原状回復工事を中核事業とする株式会社キャンズを子会社化しました。

〈建築コンサルティング事業〉

地場建築業界及び市場は、半導体供給不足による住宅設備機器の納入遅延が改善傾向にありますが、慢性的な職人不足や建築部資材の高騰により、依然として厳しい外部環境となりました。

コンサルティング部門では、長引く建築部資材の高騰やコロナ関連融資の返済により、引き続き顧客である地場工務店の経営改善に関する投資意欲は低下しました。また、当第1四半期連結累計期間には、IT導入支援を目的とした補助金対象商品の販売比重が増加しました。補助金対象商品は、審査申込から審査通過、振込までに時間を要し、売上高計上が当第2四半期連結累計期間以降となるため、売上高は前年同期比で減少しました。

2023年4月1日にエースホーム株式会社がナックスマートエネルギー株式会社を吸収合併し社名変更したナックハウスパートナー株式会社では、省エネ関連部資材の施工及び販売を手がけるスマートエネルギー事業（旧ナックスマートエネルギー株式会社）において、材工売上高の伸長により売上高は前年同期比で増加しました。

住宅ネットワーク事業（旧エースホーム株式会社）では、上棟数の減少に伴う部材売上の減少や、コンサルティング部門と共同開発した補助金対象商品の審査期間に時間を要し、売上高は前年同期比で減少しました。

損益面では、ナックハウスパートナー株式会社のスマートエネルギー事業において、前年度に引き続き卸売中心から工事請負を含めた販売構成にシフトチェンジしたことで売上総利益率が改善しましたが、売上総利益率の高いコンサルティング部門における売上高減少により、建築コンサルティング事業全体の営業損失は前年同期比で大幅に拡大しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高1,073百万円（前年同期比17.6%減）、営業損失295百万円（前年同期営業損失193百万円、ナックハウスパートナー株式会社ののれん償却額10百万円を含む）となりました。

〈住宅事業〉

住宅業界は、国土交通省発表の6月新設住宅着工戸数によると、貸家や分譲住宅を含む全体では、4ヵ月ぶりに増加した5月から再びの減少、当社の事業領域である持家では19ヶ月連続の減少となり、引き続き厳しい状況となりました。

株式会社ケイディアイでは、都心の土地価格上昇に伴い用地仕入に苦戦し、また建築部資材高騰の影響で不動産市場全体が鈍化、販売戸数が伸び悩んだため、売上高は前年同期比で減少となりました。

株式会社ジェイウッドでは、1棟あたりの販売単価の上昇や販売用不動産の売上高増加があったものの、完工棟数が減少し、売上高は前年同期比で同水準（微減）となりました。

損益面では、株式会社ジェイウッドにおいて、ウッドショックの影響を受けた前年度から販売価格の値上げを行い、1棟あたりの販売単価と売上総利益率が上昇したことにより営業損失が縮小しました。株式会社ケイディアイでは、不動産市場が鈍化し販売戸数が減少したことで営業損失は減少し、損失計上となりました。株式会社ジェイウッドの損益改善が株式会社ケイディアイの損益悪化を補った結果、住宅事業全体の営業損失は前年同期比で同水準となりました。以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高1,264百万円（前年同期比7.8%減）、営業損失198百万円（前年同期営業損失197百万円、株式会社ケイディアイののれん償却額7百万円を含む）となりました。

〈美容・健康事業〉

化粧品業界は、マスク着用緩和と新型コロナウイルスの5類感染症への移行を機に、メイクアップ及びアンチエイジング等のスキンケアの需要やインバウンド消費が増加、また、外出の増加に伴い使用機会が増えているフレグランスに対する需要も高まっており、業界全体に持ち直しの兆しがみられました。

株式会社JIMOSでは、「SINN PURETÉ（シンピュルテ）」の卸売での売上高が増加したことや、株式会社豆腐の盛田屋を2022年7月に吸収合併した影響で、売上高は前年同期比で増加しました。

株式会社ベルエアーでは、会員数減少により売上高は前年同期比で減少しました。

株式会社アップセールでは、EC販売の価格競争が激化したことによる販売量の減少により、売上高は前年同期比で減少しました。

株式会社トレミーでは、化粧品市場の回復に伴う既存顧客からの受注増加に加え、大手販売先からの新規受注があり、売上高は前年同期比で大幅に増加しました。

損益面では、株式会社トレミーの売上高が増加したことに加え、グループ会社間のオフィス共用やコストコントロールが寄与し、美容・健康事業全体の営業利益は前年同期比で大幅に増加しました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高1,638百万円（前年同期比9.7%増）、営業利益25百万円（前年同期営業損失41百万円、株式会社JIMOS、株式会社ベルエアー、株式会社アップセールと株式会社トレミー

ののれん償却額等50百万円を含む)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債および純資産の状況

(資産)

当第1四半期連結会計期間末における資産総額は、35,707百万円となり、前連結会計年度末と比べ3,028百万円減少しております。これは主に、未成工事支出金が367百万円、販売用不動産が296百万円増加した一方で、現金及び預金が3,482百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当第1四半期連結会計期間末における負債総額は、14,425百万円となり、前連結会計年度末と比べ1,105百万円減少しております。これは主に、未払法人税等が784百万円、買掛金が429百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産額は、21,281百万円となり、前連結会計年度末と比べ1,922百万円減少しております。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上と配当支払の結果、利益剰余金が1,201百万円減少、及び自己株式の消却により資本剰余金が514百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想については、2023年5月15日の「2023年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,029	7,546
受取手形及び売掛金	5,393	4,725
商品及び製品	2,310	2,284
販売用不動産	3,528	3,824
未成工事支出金	395	763
原材料及び貯蔵品	421	405
その他	1,921	2,602
貸倒引当金	△124	△125
流動資産合計	24,875	22,028
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	4,380	4,324
土地	2,202	2,202
その他(純額)	1,641	1,673
有形固定資産合計	8,225	8,200
無形固定資産		
のれん	452	500
その他	1,024	955
無形固定資産合計	1,477	1,455
投資その他の資産		
差入保証金	1,700	1,640
その他	2,703	2,668
貸倒引当金	△246	△286
投資その他の資産合計	4,157	4,021
固定資産合計	13,860	13,678
資産合計	38,735	35,707

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,064	1,634
短期借入金	2,400	2,400
1年内返済予定の長期借入金	1,547	1,457
未払法人税等	889	104
未成工事受入金	419	979
賞与引当金	787	437
引当金	169	143
その他	3,193	3,622
流動負債合計	11,470	10,780
固定負債		
長期借入金	2,195	1,841
引当金	7	7
退職給付に係る負債	189	198
資産除去債務	516	527
その他	1,152	1,070
固定負債合計	4,060	3,645
負債合計	15,531	14,425
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,729	6,729
資本剰余金	3,894	3,379
利益剰余金	14,414	13,212
自己株式	△1,262	△1,443
株主資本合計	23,775	21,878
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	279	253
土地再評価差額金	△860	△860
為替換算調整勘定	9	10
その他の包括利益累計額合計	△571	△596
純資産合計	23,204	21,281
負債純資産合計	38,735	35,707

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	11,702	11,941
売上原価	5,625	5,795
売上総利益	6,077	6,146
販売費及び一般管理費	6,321	6,309
営業損失(△)	△243	△162
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	6	7
受取家賃	51	41
その他	22	15
営業外収益合計	82	64
営業外費用		
支払利息	13	10
為替差損	2	1
地代家賃	53	41
その他	0	4
営業外費用合計	69	58
経常損失(△)	△230	△157
特別損失		
固定資産処分損	0	3
特別損失合計	0	3
税金等調整前四半期純損失(△)	△231	△161
法人税、住民税及び事業税	75	97
法人税等調整額	△47	△14
法人税等合計	28	82
四半期純損失(△)	△260	△244
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△260	△244

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純損失(△)	△260	△244
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△104	△25
為替換算調整勘定	1	0
その他の包括利益合計	△103	△25
四半期包括利益	△363	△269
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△363	△269
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の取得)

当社は、2023年5月15日開催の取締役会決議に基づき、2023年5月16日付で自己株式を1,000,000株の取得を行いました。当該自己株式の取得により、当第1四半期連結会計期間において自己株式が967百万円増加いたしました。

(自己株式の消却)

当社は、2023年5月30日開催の取締役会決議に基づき、2023年6月30日付で自己株式を1,000,000株の消却を行いました。当該自己株式の消却により、当第1四半期連結会計期間において資本剰余金が514百万円、繰越利益剰余金が271百万円及び自己株式が786百万円減少いたしました。

この結果、当第1四半期連結会計期間末において、資本剰余金が3,379百万円、利益剰余金が13,212百万円及び自己株式が1,443百万円となりました。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

① 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

i. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	クリックラ事業	レンタル事業	建築コンサル ティング事業	住宅事業	美容・健康 事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,458	4,081	1,302	1,371	1,487	11,702	—	11,702
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	0	—	—	5	6	△6	—
計	3,459	4,081	1,302	1,371	1,493	11,709	△6	11,702
セグメント利益又は損 失(△)	125	414	△193	△197	△41	108	△351	△243

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△351百万円には、セグメント間取引消去・その他調整額18百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△370百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

ii. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

② 当第1四半期連結累計期間(自2023年4月1日至2023年6月30日)

i. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント						調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	クリニック事業	レンタル事業	建築コンサルティング事業	住宅事業	美容・健康事業	計		
売上高								
外部顧客への売上高	3,600	4,380	1,072	1,264	1,624	11,941	—	11,941
セグメント間の内部 売上高又は振替高	0	0	1	—	13	16	△16	—
計	3,600	4,381	1,073	1,264	1,638	11,958	△16	11,941
セグメント利益又は損失(△)	259	408	△295	△198	25	200	△363	△162

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△363百万円には、セグメント間取引消去・その他調整額16百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△380百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の合計額は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

ii. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「レンタル事業」セグメントにおいて、株式会社キャンズの株式を取得したことにより、当第1四半期連結累計期間にのれんが85百万円発生しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。